

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 収蔵品関連図書購入費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 273 千円 (前年度予算額：273 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-----|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 273 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 273 |
| 要求額 | 273 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 273 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

当館では、「20世紀以降の近現代の世界陶磁」を収集コンセプトとして、収蔵品及び関連図書等の購入を行ってきた。

関連図書としては、収集対象作家の経歴、作品等の調査を含め、陶芸を専門とする調査研究活動を行うため、公立図書館の蔵書に限らず、洋書や貴重書を含めた専門性の高い書籍の収集を行うこととしている。

(2) 事業内容

- ・美術史・陶芸史の流れや、陶芸界の現状を把握するための検討資料として基礎的文献を収集する。
- ・陶芸の専門美術館としての運営・活動における資料として関連図書を収集する。
- ・収集候補作品及び収蔵品の調査研究に必要な関連図書等を購入する。
- ・展覧会事業の開催準備において、企画内容に関連する図書等を購入する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|-------|-----|---------|
| 備品購入費 | 273 | 図書購入費 |
| 合計 | 273 | |

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

| | |
|-------------------------------------|--------|
| <input type="checkbox"/> | 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
館内で利用する資料を充実させることで、学芸員の研究を推進するとともに、展覧会事業や作品収集にかかわる情報体制を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 | 指標の推移 | | 現在値 (前々年度末時点) | 目標 | 達成率 |
|------|-------|-----------------|-----------------|------------------|----------------|------|
| 入場者数 | (H) | 33,645 (H29) | 69,852 (H30) | 24,976 (R1) | 12,700 (R3) | 131% |

※R3年度に開催する企画展は2本である。R1年度には企画展が3本あったため、以下の計算で達成率を算出した。

$$(24,976 \times 2/3) \div 12,700$$

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
近年は約28万の予算の範囲で図書資料の購入を行っている。また作家遺族や研究者、他館などからの寄贈を受け入れている。所蔵資料はデータベースに登録して一括管理をしている。収集した図書資料、基礎研究、展覧会企画の立案やコレクション形成に活用した。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
引き続き基本文献をそろえて資料の充実化を図るとともに、他館で開催された展覧会の資料について恵贈を依頼することで最新の情報入手に努めた（他館から依頼のあった場合には当館も図録の寄贈等を行っている）。各地で開催される展覧会図録の収集や、古書、雑誌のバックナンバーの購入などを行うことで、展覧会準備や、作家・作品調査に活用できた。また、こうした取り組みが継続・周知されたことで、作家や研究者からの書籍寄贈の申込みを受けることが出来た。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い | |
| (評価) ○ | 収蔵作品の調査や企画立案、運営には、関連資料の調査が欠かせない。これらの資料が館に所蔵されていない場合にかかる負担を考えると、資料の収集および保管は必要性が高い。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない | |
| (評価) ○ | 他館への恵贈依頼や資料の活用を望む作家遺族からの寄贈などにより資料の充実が進み、来館者からの質問への対応にも有効である。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある | |
| (評価) ○ | 寄贈依頼の申請によって予算では賄えない分を補てんし経費の節減になっている。 |

(今後の課題)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・関係する新古資料の収集は今後も継続的にしていかなければならないが、不足している図書保管スペースの確保や人員不足の中での書籍の登録・整備が課題である。 |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>美術館における活動の中心である展覧会の開催や作品の収集活動にむけた調査研究のために関連図書の購入は必須の事業であり、今後も寄贈依頼を積極的に申請するなどしながら資料の充実を図り、最新研究の入手に関する利便性を高める努力をする。</p> |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|--|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | |
| 組み合わせる理由や期待する効果 など | |